

ちょっとした、得する！耳寄り情報

Vol. 63

てんこもり



発行：丸ス産業株式会社 「てんこもり」編集部
TEL：0574-72-1318 FAX：0574-72-2739

新年度スタート。春爛漫の暖かな日差しが何よりうれしい季節となりました！



ニューメソの1 ホワイトロード 展望台完成！

昭和52年に開通した「白川郷ホワイトロード」は、白山国立公園の秘境の地を通る山岳有料観光道路です。完全舗装の2車線道路で、今年46年目を迎えます。供用期間は、6月中旬から11月10日までのおおよそ5ヶ月間です。道路沿いには、日本の滝百選の一つ「姥ヶ滝」や、落差86

mの「ふくべの大滝」など迫力満点の大小の滝があります。2015年の名称の変更に伴い「全ての人 が自然と感動を味わう」ことができるよう利便性の向上を図っているそうです。その一つとして施設のバリアフリー化があります。現在までに三方岩駐車場展望台や多目的トイレ2箇所・身障者トイレ3箇所を新築。近隣の情報や他国語でのDVDを視聴することができるよう「情報ハウス」も車椅子での入室ができます。昨年の8月には軽食みやげの雲海処「蓮如茶屋」がバリアフリーとしてリニューアルオープンしました。今回最も強調したい施設は「白川郷展望台」です。昨年の10月に完成した新た



な観光スポットで工事に3年かかりました。70名がゆつたり座れる木製デッキがあり、白川郷の山々を眼下に観ることがができます。夏を過ぎると白川郷を包み込む雲海をご覧いただけます。思わず息を呑む光景です。展望台デッキは車椅子でも行けるように設計され、デッキの隣には「天空ブランコ」や「多目的トイレ」も完成しています。デッキの近くには樹齢300年のブナの原生林や散策路もありあります。マスクは要りません。白川郷に向かいデッキから「〇〇さん、ありがとう！」と叫んではいかがですか。みなさまに感動を与えること間違いありません。 by 島崎



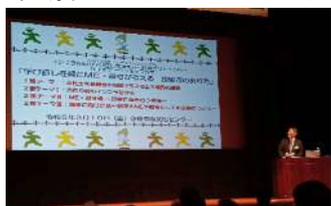
ニューメソの2 人材育成連携コンソーシアム シンポジウム「インフラ技術の学びなおしを考える」

3月10日に、表記のシンポジウムが岐阜市文化センターで開催されました。前日に修了生ワークショップが同会場でありましたが、岐阜ME11期生の私は10日のみ参加しました。そのときの様子をレポートさせていただきます。前半では、①「笹子トンネル崩

落事故を経験して」と題して、当事故の被害者でもあるNHK岐阜放送局コンテンツセンターの後藤喜男氏、②「東日本大震災での対応」MEを受講して」と題して、岩手県宮古市 刈屋建設(株)の上野裕也氏(ME312号)、③「令和2年7月下旬豪雨災害におけるMEの連携と活躍」と題して、下呂市日産工業(株)の林尚人氏(ME327号)の3名による講演がありました。①では、現在のインフラメンテナンスにおける重要な端緒となった事故と、被害者や遺族の方の思いが語られました。②では、大震災直後の極限状態での応急復旧に挑む姿が淡々と語られました。シンポジウム当日は震災後12年の節目であり、本当に心打たれる内容でした。③は比較的身近な地域で起きた災害で、MEで築いた関係を生かして早期に国道を復旧された体験を発表されました。地元の方々とのふれあいもあり、これも胸を打たれる内容でした。3題に共通するのは、

事故や災害によって被災された方々の無念の思いや後悔の念です。そして私たち土木技術に携わる者が、社会の期待に込めていくには、技術を学ぶ事への不断の努力と、日常・緊急時を問わず速やかに情報を共有し、同じレベルで論じ合える技術者ネットワークの構築と維持が重要だということです。後半は、長崎道守・四国ME・ME山口・ME新潟・高専REIMの方々から活動報告があり、そうしたMEのネットワークの広がりを実感できました。また、その中で活動するME修了生から、前日のワークショップで検討されたMEの将来に対する思いが発表され、感動を呼びました。

2008年から始まった岐阜MEの活動は、15年を経てより大きくより広くなり、また、一層社会的な責任も増しました。私も、初心に帰って自分の活動を見直してみたいと思います。 by 安江護 ME220号



ニコー
メその3
美味しい
お店の紹介

郡上市大和地区が平成20年に「どぶろく特区」に認定されました。「どぶろく」は、

炊いたお米に米麴や酵母などを加え発酵させて作る日本酒（清酒）の原型となるお酒です。搾らず濾さない



ので白く濁っており、「濁り酒」と混同されることがありますが似て非なるものだと思います。秋田県北秋田市にて開催された『第16回全国どぶろく研究大会』において、郡上市内の4事業者がそろって入賞という栄誉に輝きました。今回私は母袋工房（もたいこうぼう）さんをお邪魔しました。この工房は酒造りで農地を守り、米の付加価値へとつなげたいという思いで、特区取得まで積極的に取り組んでこられ



ました。研究を重ね、この地区第1号どぶろく「奥の奥」を商品化しました。母袋工房さんは燻り豆腐が有名で、豆腐の製造や湯葉料理店も営んでいらつしやいます。取材に訪れた際、お店で豆腐料理を食べようと意気込みましたが、冬季は料理店を営業していません。開店している季節は、街道弁当・旅籠料理・母袋会席とメニューが揃っており、山川の幸、豆腐を中心に野趣に富んだ素材を、季節に合わせて調理しているそうです。また各コースともにアツアツ



の引き上げ湯葉が食べ放題です。私は『母袋燻り豆腐』と『どぶろく奥の奥』を買いて求め、家内と晩酌でいただきました。どぶろく白は辛口、濃厚で力強く深い味わいです。燻り豆腐はいわゆる豆腐の燻製で、母袋地区に古くから伝わる伝統の保存食です。固く作った豆腐を郡上みそに漬けて乾燥し、桜チップで燻してあります。食べ始めはスモークチー

ニコー
メその4
つくしん
の種

ズのようにあり、徐々に豆腐の風味が広がってきます。どぶろくとの相性は抜群でした。今回受賞した4業者さんのどぶろくと、母袋工房さんの豆腐商品は道の駅『古今伝授の里 やまと』で購入できます。皆さんもどぶろくの世に浸り酔ってみませんか。『母袋工房』・旅籠料理 豆腐・湯葉料理『奥の奥』☆郡上市大和町栗巣1670・1 ☆TEL0575(88)3156 『奥の奥』さんは月曜日定休 営業時間11時半より 2名様からの予約営業 by小関

2月27日、防災学術連携体主催の「令和5年トルコ・マラシシュ震災に関する緊急報告会」がありました。今回はそこで学んだ話題です。最初に、このたびの「トルコ南部を震源とする地震」で被災された方々に謹んでお悔やみとお見舞いを申しあげます。さて、今回のトルコ震源はアラビアプレートとアナトリアプレート（ユーラシアプレート）のマイクロプレート）境界に



世界の地震地図
トルコとアラビア海プレート
3つの境界

ある左横ずれ断層によるものでした。報道にありましたように2回（Mw7.8とMw7.6）の地震が、トルコとシリアの国境付近で発生し、死者は5万人を超えました。1回目の地震は早朝4時過ぎで、多くの人が家で寝ている時間帯です。2回目は13時過ぎです。このとき撮影した地震被害の動画が世界に伝えられました。Mwは岩盤のずれの規模をもとにして計算した震源のエネルギーで、計算するのに少し時間がかかります。日本の地震速報は気象庁マグニチュードMjで、東日本大震災におけるMjは8.4、Mwは9.0でした。Mwが同じ規模のプレート境界地震を探すと、1923年の関東大震災が近いそうです。この地震は相模トラフを震源とする海溝型地震です。死者10万5千人（焼死が9割）、100年前の地震ですが、最近の阪神淡路大震災や東日本

大震災より死者数が大きいので驚きます。トルコは地震が多い国です。1999年にMw7.6の地震があり、17000人を超える死者があつたそうです。その地震を機会としてトルコの建築耐震設計が2000年に見直されました。新しい基準をきちんと守った建物は、今回の地震でも被害が少なかったようです。ニクスで取り上げられるのは崩壊した建築物ばかりです。それらの多くは層崩壊（パンケーキタイプの崩壊）、間仕切りレンガ壁の崩壊、ねじれによる局部崩壊や部分崩壊でした。道路盛土の全般破壊や、液状化による建物被害もありました。新しい建物でも基準を守らない建物が被災しました。日本は、良くも悪くも、ルールを守らせようとする同調圧力があると云われます。今回の被災状況を知ると、同調圧力も悪いことばかりでないと思えました。おわりに、自然の脅威に人が抗うのはとても困難です。一方で、トルコの免振構造の病院は無傷に近かったという報告があり一筋の救いでした。 by FATかとう